

群馬県立女子大学 FLRI Newsletter
Foreign Language Research Institute
外国語教育研究所だより
Vol.23 2013.10.22

グローバル人材育成事業 「明石塾」



8月3日、明石塾12期生（20名）の入塾式が本学で行われました。

明石 康塾長式辞（抜粋）

グローバル化は大きな試練ですけれど、私は必ずや、今まで多くの歴史的な障害に見事に打ち勝ってきた日本人は、今我々の目の前を塞いでいるチャレンジを見事に、成功裡に解決できると確信しています。その意味でも、若い世代、大学に入る前の高校という大変重要な時期にある皆さんは、自分の正規の学業の他に週末を利用して、ここで力をつけ、色々な人に会って、異なる意見を聞いてみる。世界の広さと日本が直面している問題の複雑さ、またその大きな可能性について一人ひとりが自分なりに考えていく。その中で自分がどんな役割が果たせるか、どういう仕事ができるだろうかと真剣に考える。そういう機会がこの明石塾で

ありたいと思います。英語力をつけることもそのため必要な条件です。基礎的な英語力は高校までにつけていただきたい。大学に入ったら英語を勉強するというより、それぞれの学問について英語で勉強する。自分のマスターしたい分野について英語で読み、書き、聞くこともしゃべることまで行ってほしい。しかし、語学力だけでは十分とは言えません。一番大事なものは、やる気、チャレンジ精神だと思います。それから他の国の文化に対する畏敬の念。これを捨ててはいけません。

皆さんが21世紀の世界において、立派な日本国民として、また世界市民として活躍できることを心から念願し、その土台の一つを明石塾で是非とも身につけていただきたいと思っています。

学長祝辞、塾生代表決意表明

続く学長祝辞では、本学の濱口富士雄学長が「明石塾で学ぶということは、今の高校生活の時点で非常に高いレベルの学習をするということになる。そのことに対して自信と自負を持っていただきたい。また、明石塾の課程を通して国際感覚豊かな人材として、国際状況、日本の状況に対して今の段階で高い見識を身につけていただきたい。そして多文化共生という考え方を皆さんの思考と行動の基礎として今後も過ごし、皆さんが志している活躍、希望を実現していただきたい。」と述べました。

式の最後には、県立太田女子高校2年生の小林美奈実さんが、「明石塾での様々な学習や活動は本物に触れ合う機会を与えてくれる。高校生の段階で本物を体験することは将来の選択の幅を広げるのにとっても大きく影響する。明石塾を通して具体的に将来何をしたいのか、明確な目標を見つけたい。明石塾で踏み出す一步は将来何かを変える一步になるかもしれない。入塾した仲間達とお互いを高め合い、成長しながら全員で大きな一步を踏み出したい。」と入塾に際して決意を述べました。



塾長講義（抜粋）



グローバル人材とは何かと考えると、3つの要素がグローバル人材を構成していると見なされています。第1の要素はコミュニケーション能力。これはもつと端的に言うと英語能力です。2番目にはやる気があること。チャレンジ精神を持っていること。3番目は世界中には多様な文化があり、それを理解し、それとの共存を図ること。つまり異文化理解ということになります。コミュニケーション能力、やる気、異文化理解、この3つを備えたときにグローバル人材ということになると言われています。この条件ですが、1番大事なものは、やる気、チャレンジ精神だと私は思います。2番目に大事なものは、

異文化理解だろうと思います。特に日本が必要とするのは、自分と違った文化に対する認識、尊敬の念。自分の文化を尊敬してもらう権利もあるのですが、他の文化も認めていかないと真の世界市民とは言えないと思います。

コミュニケーション能力はもちろん必要です。これからの世界で生きていくためには、アメリカ英語でもないイギリス英語でもない無国籍の英語。例えばインド人はインド英語でいいし、シンガポール人はシンガポールの英語でいい。日本人もあまり訛りがひどくは困るけれど、そんなに聞きづらくない程度であれば訛りがあっても、それは日本人としてのアイデンティティとも言えるわけだから、よいのではないかと。完璧な英語ができれば、それに超したことは無いですが、完璧な英語ができないから実際の場合で発言をしてはいけないのか、それは恥ずかしいことなのかといえ、そうではない。自分の考えていること、感じていることを正直に皆に伝える。グローバル化した世界で国際社会の成員として、日本人なりでいいから100%正確でなくても、発音が正しくなくてもそれを使う。そのことをあまり重荷と考えない、負担に思わない方がよい。そうでないとアジアの他の国々とコミュニケーションを図ることができなくなるのではないかと思います。

どれだけの語学能力を持てばよいかということになると、それぞれの人によって、また職業によってレベルが違っていい。それぞれの人それぞれがそれぞれの生活において、仕事において必要とする英語は違うわけです。問題は自分の言いたいこと、伝えたいこと、自分と利害関係があることについてきちんと意思の疎通ができるようにすることです。日本人はシャイで消極的だからもつと喋らなければいけない、発言能力を持たなくてはいけないというけれど、わたしは発言能力よりも受信能力の方がずっと大事だと思っています。自分の意見をもちろん自分は知っている。それを英語で言うことは準備時間があるわけですから、自分で用意できるし、練習もできる。しかし相手が何を言うかは相手と言うまで分からないでしょう。だから一生懸命、100%それを知る必要はないけれど、キーワードはきちんと捉えて、相手の伝えようとしている真意だけはきちんと把握する。そういう能力は大変なものです。

これからの世界においては、外国の人と共感する能力、お互いに感じ合う能力、それにこちらの意志を説明する能力が必要になってくるということです。外国の人たちと一緒に仕事をする機会も多くなってきますから、そういう場で自分を懇切に説明する能力は必要になってくると思います。別にそれは流暢であるとか、言葉がさわやかであるということだけでなく、とにかく誠実に自分を説明し、自分の考えていることをよく伝えることがますます必要になっているのです。「あの人は空気が読めない人だ」と、日本でよく言われますが、日本人が気にするのはどこでも目立ちたくないということですね。「出る杭は打たれる」という言葉がありますけれど、目立たなくて、打たれない杭になりたいという念願ではないかと思っています。しかし、「空気が読める」ことは大事だと思うけれど、あまり空気を読みすぎると、自分の意見があっても、それをきちんと表したくない、表すことは余計なことだという気持ちになっていくのではないのでしょうか。「長いものには巻かれる」ということになりかねない。だから、自分はちょっと違うことを考えているので、それを言ってみようと思う人は、言ったほうがよい場合もあります。これからそういうことが多くなっていくのではないかと思います。世界は急速に変わっています。日本も急速に変わっています。仕事のやり方、仕事の上での決定も今までのやり方だと駄目かもしれません。同じやり方でやるのではなく、色々なやり方があるでしょうから、皆で違う考えを持ち寄ることによって、日本という国が良い方向へ変わっていくきっかけになることもあり得る。とにかく、我々一人ひとりが自分の考えをきちんと持つことが大事になってきていると思います。

研修報告

明石塾では次のとおり研修を行いました。

日付	午前	午後
8月 6日(火)	英語研修1・2	講義②『『赤毛のアン』を読むとわかること-異文化を訪ねる』
8月 7日(水)	講義③『強いられた人口移動に見る『民族』の問題-ロシアの境界-』	講義④『英語音声学入門』
8月 8日(木)	講義⑤『貧困問題の解決に向けて-マイクロファイナンスを読み解く経済学-』	講義⑥『世界の中の英語と日本語』
8月 9日(金)	講義⑦『世界史のなかの群馬』	講義⑧『言葉とは何か』
8月12日(月)	英語研修3・4	英語研修5・6
8月13日(火)	英語研修7・8	英語研修9・10
9月 7日(土)	英語研修11・12(公開)	テーマ討論①
10月5日(土)	東京フィールドワーク(体験学習) 研修場所: グローバルフェスタJAPAN2013 東京ジャーミイトルコ文化センター	



大学高校英語教育連携事業

昨年度に引き続き県立伊勢崎高等学校、沼田女子高等学校、高崎市立高崎経済大学附属高等学校と連携し、英語研修を行っています。

8月23日の沼田女子高校の研修では、予め設けたトピックについて各自がグループ内でスピーチを行い、お互いに評価し合いました。

8月22日、9月3日の高崎経済大学附属高校と伊勢崎高校の研修では、グループごとにShow and Tellを行い、その後プレゼンテーションに向けたトピックの選び方、原稿の書き方を学習しました。

3校とも様々なコミュニケーション活動を行いながら、今後更に効果的なプレゼンテーション能力の向上を目指します。



県民英会話サロン「グローバルカフェ」

今年度第1期のグローバルカフェは5月9日より7月25日まで毎週木曜日に行われました。7月18日のカフェスペシャルでは、本学国際コミュニケーション学部の三上結花子さん、瀬谷梓さん、小林香央里さん、四方田智里さんが1年間の留学について発表し、県内の高校で英語を指導するALTのフィリップ・ベネットさんもゲストスピーカーとして参加しました。発表者、参加者の皆さんご協力ありがとうございました。

第2期グローバルカフェを以下のとおり開催します。事前の予約、準備は必要ありません。参加希望の方は、開催日に直接会場までお越し下さい。

日時: 9月26日(木)~12月12日(木)
毎週木曜日(全12回)
18時30分~20時

場所: 高崎市総合福祉センター3階会議室4



留学支援事業

平成25年度群馬県観光親善学生大使委嘱状交付式

7月24日、本学の海外留学支援プログラムを利用し、長期及び短期で海外に留学する学生83名を対象に、群馬県観光親善学生大使委嘱状交付式が行われました。

濱口学長は、「群馬の良いところを相手に伝え、群馬に親近感を持っていただいた上で勉学に励み、大きな成果を持って大学に戻ってきてほしい。」と激励の言葉を述べました。学生を代表して、文学部国文学科2年生の角田千種さんは、「将来日本語教師として働きたい夢があり、留学中に英語で日本語を教えられる英語能力を身につけたい。ずっと夢見てきた長期留学が叶うと思うと本当に嬉しい。留学をサポートしてくれた多くの人に感謝し、観光親善学生大使として、群馬の魅力を発信して帰国したい。」と留学に対する決意を語りました。



留学帰国報告

短期海外研修（語学留学） タスマニア大学ホバート校（オーストラリア） 文学部英米文化学科3年 H.T.

4週間英語を学ぶ中で私が最も実感したのは、スピーキング能力の向上である。これまで英語を話す機会が少なかったため、留学前は話す前に考え込んでしまい、発言するのが苦手だった。しかし、現地では一日中英語に触れ、自然と失敗を恐れず発言をするようになった。授業にディスカッションが多く取り入れられていたこと、出会った人々が、私の言うことに親身に耳を傾けてくれたことが何より自信になったと感じている。

また、現地の習慣や価値観に触れたことが、自分自身や生活を見直すきっかけになっただけでなく、ホストファミリーや学校で会った友達と話し合うことで、オーストラリアの文化と共に様々な国の文化も学ぶことができ、とても有意義な時間を過ごすことができた。

日本を発つ前は不安で迷いもあったが、行ってみればとても楽しく、思い出深い日々を過ごすことができた。今回の留学の目的であった会話力の向上は勿論、自分自身も大きく成長し、様々な国籍の友達もできたことにとっても満足している。



長期留学（交換留学） ヒューロン大学（カナダ） 国際コミュニケーション学部3年 M.S.

カナダでの留学生活は本当にあつという間だったが、人生で一番濃厚な8ヶ月間であった。様々な壁にぶつかったが、経験したことが全て自分の成長につながったと自信を持って言える。

第1の壁はルームメイトが全員日本人だと知り、不安と焦りを感じたことだった。そこで、イベントには積極的に参加、友達の誘いには必ずついて行くようにし、英語を喋る機会を必死に探した。そのおかげで世界各国に友人ができ、たくさんのコミュニティーに所属し、異文化を存分に吸収できた。この経験からピンチをチャンスに変えるという精神を学んだ。

第2の壁はビジネスのクラスであった。今まで授業が理解できないということを経験したことがなかったので、どうしたらよいか分からなかったが、テスト前は友人に教えてもらい、教授の所へ毎日通った。最後にはこのクラスが一番好きになり、人生で初めて勉強が楽しいと思えた。

今後長期留学へ行く皆さんも壁にぶつかってもくじけずに、思い切って留学生活を送ってほしい。

お知らせ

次の行事に参加を希望される方はメールにて群馬県立女子大学外国語教育研究所（flri-one@pref.gunma.lg.jp）へお申し込みください。なお、詳細については本学ホームページをご覧ください。

○明石塾公開

以下の日程で明石塾を公開します。

日時：平成25年11月16日（土） 場所：群馬県立女子大学 新館3階教室（午前）、6階 研修室（午後）

内容：午前（10時～12時） 英語研修

午後（13時30分～15時30分） 講義 講師 緒方 枝里奈氏（独立行政法人 国際協力機構 JICA）明石塾第1期生

○英語教育講演会

県内の小学校、中学校、高等学校及び大学の先生方に対して、英語教育における小中高大の連携について、その方策を具体的に考え、模索する機会を設けるため、英語教育講演会を開催します。

日時：平成25年12月21日（土）13時30分～15時30分 場所：群馬県立女子大学 新館1階第1講義室

講師：岡田 伸夫氏（関西外国語大学英語キャリア学部教授）

発行：群馬県立女子大学外国語教育研究所

〒370-1193 群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1

TEL：0270-65-8511(代) FAX：0270-65-9538 URL：http://www.gpwu.ac.jp/